



Nexus Dashboard での NDO サービスのアップグレード

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [Cisco App Store を使用した NDO サービスのアップグレード \(3 ページ\)](#)
- [NDO サービスの手動アップグレード \(5 ページ\)](#)
- [設定のばらつきの解決とテンプレートの再展開 \(7 ページ\)](#)

概要

以下のセクションでは、Cisco Nexus ダッシュボードに展開されている Cisco Nexus Dashboard Orchestrator をアップグレードまたはダウングレードする方法について説明します。

VMware ESX VM または Cisco Application Services Engine に導入されている以前のリリースを実行している場合は、代わりに、[Cisco Nexus Dashboard Orchestrator 展開ガイド](#)の「Nexus ダッシュボードへの既存のクラスタの移行」の章の説明に従って、まったく新しいクラスタを展開し、既存のクラスタから設定を転送する必要があります。

前提条件とガイドライン

Cisco Nexus Dashboard Orchestrator クラスタをアップグレードまたはダウングレードする前に、次の手順を実行します。

- リリース 3.2(1) より前のリリースからのステートフルアップグレードはサポートされていません。

それより前のリリースからアップグレードする場合は、この章の残りの部分をスキップし、[『12.0.1a12.0.2fNexus Dashboard Orchestrator Deployment Guide』](#)の「Migrating Existing Cluster to Nexus Dashboard」の章に記載されている手順に従ってください。

- 現在の Nexus ダッシュボードクラスタが正常であることを確認します。

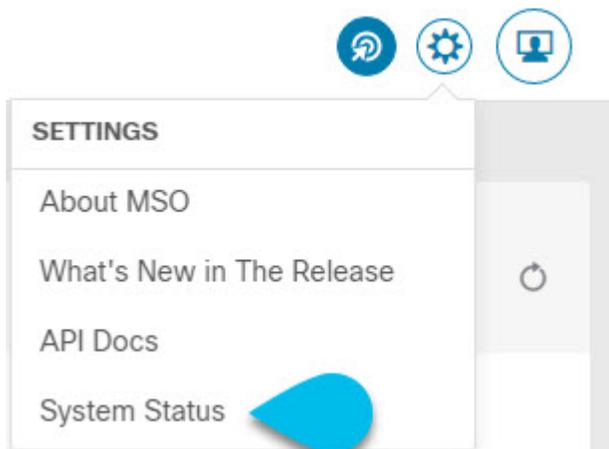
Nexus ダッシュボードクラスタの状態は、次の 2 つの方法のいずれかで確認できます。

- Nexus ダッシュボード GUI にログインし、[システム概要 (System Overview)] ページでシステムステータスを確認します。
- いずれかのノードに直接 `rescue-user` としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
# acs health
All components are healthy
```

- 現在の Cisco Nexus Dashboard Orchestrator が正常に動作していることを確認します。

Nexus Dashboard Orchestrator サービスのステータスは、[設定 (Settings)] > [システムステータス (System Status)] に移動して確認できます。



次に、すべてのノードとサービスのステータスが正常であることを確認します。



- NDO サービスのアップグレードは次のいずれかの方法で実行できます。
 - [Cisco App Store](#) を使用した [NDO サービスのアップグレード \(3 ページ\)](#) の説明に従って、Nexus ダッシュボードの App Store を使用します。

この場合、Cisco DC App Center は、管理ネットワークを介して直接、またはプロキシ設定を使用して Nexus ダッシュボードから到達可能である必要があります。Nexus ダッシュボードのプロキシ設定については、『*Nexus Dashboard User Guide*』を参照してください。



(注) App Storeでは、サービスの最新バージョンにのみアップグレードできます。たとえば、リリース 3.7(1) が利用可能な場合は、App Storeを使用してそれより前のリリースにアップグレードすることはできません。別のリリースにアップグレードするには、以下で説明する手動アップグレードプロセスを使用する必要があります。

- [NDO サービスの手動アップグレード \(5 ページ\)](#) の説明に従って、新しいアプリケーションイメージを手動でアップロードします。

この方法は、DC App Center への接続を確立できない場合、または使用可能な最新リリースではないアプリケーションのバージョンにアップグレードする場合に使用できます。

- Nexus Dashboard Orchestrator をこのリリースにアップグレードした後に新しい Cloud APIC サイトを追加および管理する場合は、それらのサイトが Cloud APIC リリース 5.2(1) 以降を実行していることを確認してください。

以前のリリースを実行しているクラウド APIC サイトのオンボーディングと管理はサポートされていません。

- リリース 3.3(1) より前のリリースへのダウングレードはサポートされていません。
- アップグレードを開始する前に、既存の構成をバックアップすることをお勧めします。

Cisco App Store を使用した NDO サービスのアップグレード

ここでは、Cisco Nexus Dashboard Orchestrator をアップグレードする方法について説明します。

始める前に

- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#) で説明している前提条件をすべて満たしていることを確認します。
- Cisco DC App Center が Nexus ダッシュボードから管理ネットワーク経由で直接、またはプロキシ設定を使用して到達可能であることを確認します。

Nexus ダッシュボードのプロキシ設定については、[『Nexus Dashboard User Guide』](#) を参照してください。

ステップ 1 Nexus Dashboard にログインします。

Cisco App Store を使用した NDO サービスのアップグレード

ステップ 2 左のナビゲーションメニューから **[サービス カタログ (Service Catalog)]** を選択します。

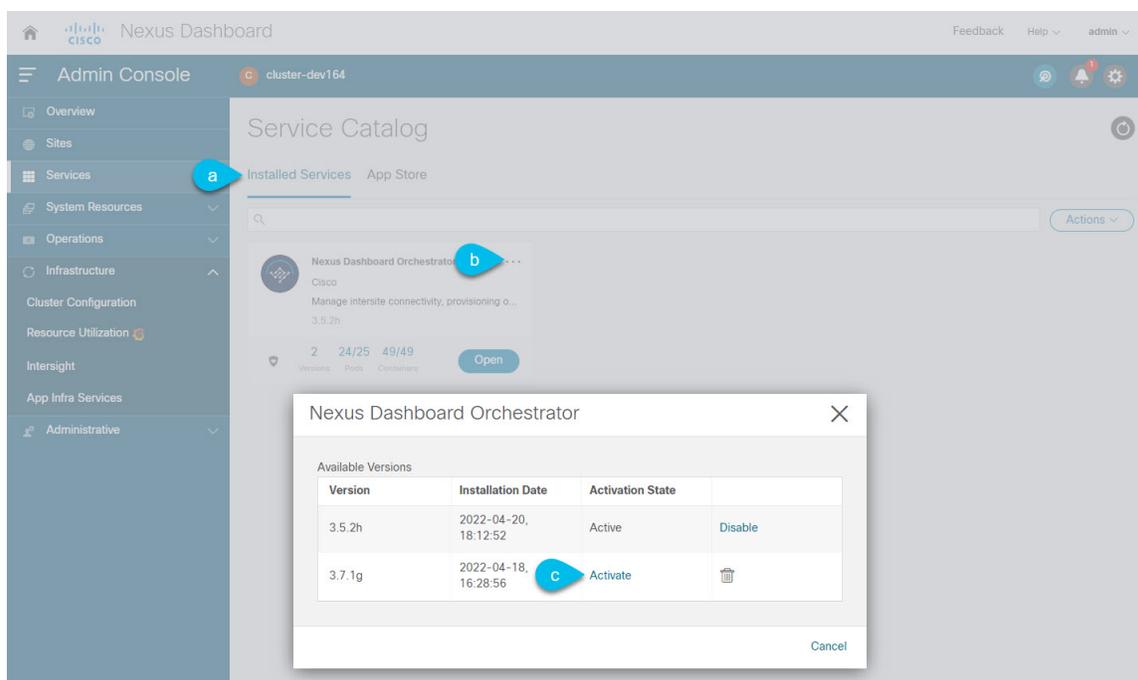
ステップ 3 App Store を使用してアプリケーションをアップグレードします。

- [サービス カタログ (Service Catalog)]** 画面で **[アプリストア (App Store)]** タブを選択します。
- [Nexus ダッシュボード オーケストレータ (Nexus Dashboard Orchestrator)]** タイルで、**[アップグレード (Upgrade)]** をクリックします。
- 開いた **[ライセンス契約 (License Agreement)]** ウィンドウで、**[同意してダウンロード (Agree and Download)]** をクリックします。

ステップ 4 新しいイメージが初期化されるまで待ちます。

新しいアプリケーションイメージが使用可能になるまでに最大 20 分かかることがあります。

ステップ 5 新しい画像をアクティブにします。



- [サービス カタログ (Service Catalog)]** 画面で、**[インストール済みサービス (Installed Services)]** タブを選択します。
- [Nexus Dashboard Orchestrator]** タイルの右上にあるメニュー (...) をクリックし、**[利用可能なバージョン (Available Versions)]** を選択します。
- [Available Versions]** ウィンドウで、新しいイメージの横にある **[アクティベート (Activate)]** をクリックします。

(注) 新しいイメージをアクティブにする前に、現在実行中のイメージを無効にしないでください。イメージアクティベーションプロセスは、現在実行中のイメージを認識し、現在実行中のバージョンに必要なアップグレードワークフローを実行します。

すべてのアプリケーションサービスが起動し、GUIが使用可能になるまでに、さらに最大20分かかる場合があります。このページは、プロセスが完了した時点で自動的に再ロードされます。

ステップ 6 (任意) 古いアプリケーション イメージを削除します。

ダウングレードする場合に備えて、古いアプリケーションバージョンを保持しておくこともできます。または、この手順の説明に従って削除することもできます。

- a) [サービス カタログ (Service Catalog)] 画面で、[インストール済みサービス (Installed Services)] タブを選択します。
- b) [Nexus Dashboard Orchestrator] タイルの右上にあるメニュー (...) をクリックし、[利用可能なバージョン (Available Versions)] を選択します。
- c) 使用可能なバージョンのウィンドウで、削除するイメージの横にある削除アイコンをクリックします。

ステップ 7 アプリを起動します。

アプリケーションを起動するには、Nexus ダッシュボードの [サービスカタログ (Service Catalog)] ページのアプリケーションタイルで [開く (Open)] をクリックします。

シングルサインオン (SSO) 機能を使用すると、Nexus ダッシュボードで使用したものと同一クレデンシャルを使用してアプリケーションにログインできます。

次のタスク

NDO サービスをアップグレードした後、構成のばらつきを解決し、「[設定のばらつきの解決とテンプレートの再展開 \(7 ページ\)](#)」で説明されているようにテンプレートを再展開する必要があります。

NDO サービスの手動アップグレード

ここでは、Cisco Nexus Dashboard Orchestrator をアップグレードする方法について説明します。

始める前に

- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#) で説明している前提条件をすべて満たしていることを確認します。

ステップ 1 ターゲットのリリース イメージをダウンロードします。

- a) DC App Center で Nexus Dashboard Orchestrator ページを参照します。
<https://dcappcenter.cisco.com/nexus-dashboard-orchestrator.html>
- b) [バージョン (Version)] ドロップダウンから、インストールするバージョンを選択し、[ダウンロード (Download)] をクリックします。
- c) [同意してダウンロード (Agree and download)] をクリックしてライセンス契約に同意し、イメージをダウンロードします。

ステップ 2 Nexus Dashboard にログインします。

ステップ 3 Nexus ダッシュボードにイメージをアップロードします。

NDO サービスの手動アップグレード

- a) 左のナビゲーションメニューから [サービス カタログ (Service Catalog)] を選択します。
- b) Nexus ダッシュボードの [サービス カタログ (Service Catalog)] 画面で、[インストール済みサービス (Installed Services)] タブを選択します。
- c) メインペインの右上にある [アクション (Actions)] メニューから、[アプリケーションのアップロード (Upload App)] を選択します。
- d) [アプリケーションのアップロード (Upload App)] ウィンドウで、イメージの場所を選択します。
アプリケーションイメージをシステムにダウンロードした場合は、[ローカル (Local)] を選択します。
サーバでイメージをホストしている場合は、[リモート (Remote)] を選択します。
- e) ファイルを選択します。
前のサブステップで [ローカル (Local)] を選択した場合は、[ファイルの選択 (Select File)] をクリックし、ダウンロードしたアプリケーションイメージを選択します。
[リモート (Remote)] を選択した場合は、イメージファイルのフル URL を指定します。たとえば、`http://<ip-address>:<port>/<full-path>/cisco-mso-<version>.nap` のようになります。
- f) [アップロード (Upload)] をクリックして、アプリケーションをクラスタに追加します。
アップロードの進行状況バーとともに新しいタイルが表示されます。イメージのアップロードが完了すると、Nexus ダッシュボードは新しいイメージを既存のアプリケーションとして認識し、新しいバージョンとして追加します。

ステップ 4 新しいイメージが初期化されるまで待ちます。

新しいアプリケーションイメージが使用可能になるまでに最大 20 分かかることがあります。

ステップ 5 新しい画像をアクティブにします。

The screenshot shows the Nexus Dashboard interface. The left sidebar contains the navigation menu with 'Services' highlighted. The main area displays the 'Service Catalog' for 'cluster-dev164'. A modal window titled 'Nexus Dashboard Orchestrator' is open, showing a table of available versions. The table has columns for Version, Installation Date, Activation State, and an action button. The current version 3.7.1g is highlighted with a blue circle 'c' over the 'Activate' button.

Version	Installation Date	Activation State	
3.5.2h	2022-04-20, 18:12:52	Active	Disable
3.7.1g	2022-04-18, 16:28:56	Activate	🗑️

- a) [サービス カタログ (Service Catalog)] 画面で、[インストール済みサービス (Installed Services)] タブを選択します。
- b) [Nexus Dashboard Orchestrator] タイルの右上にあるメニュー (...) をクリックし、[利用可能なバージョン (Available Versions)] を選択します。
- c) [Available Versions] ウィンドウで、新しいイメージの横にある [アクティベート (Activate)] をクリックします。

(注) 新しいイメージをアクティブにする前に、現在実行中のイメージを無効にしないでください。イメージ アクティベーション プロセスは、現在実行中のイメージを認識し、現在実行中のバージョンに必要なアップグレードワークフローを実行します。

すべてのアプリケーションサービスが起動し、GUI が使用可能になるまでに、さらに最大 20 分かかる場合があります。このページは、プロセスが完了した時点で自動的に再ロードされます。

ステップ 6 (任意) 古いアプリケーションイメージを削除します。

ダウングレードする場合に備えて、古いアプリケーションバージョンを保持しておくこともできます。または、この手順の説明に従って削除することもできます。

- a) [サービス カタログ (Service Catalog)] 画面で、[インストール済みサービス (Installed Services)] タブを選択します。
- b) [Nexus Dashboard Orchestrator] タイルの右上にあるメニュー (...) をクリックし、[利用可能なバージョン (Available Versions)] を選択します。
- c) 使用可能なバージョンのウィンドウで、削除するイメージの横にある削除アイコンをクリックします。

ステップ 7 アプリを起動します。

アプリケーションを起動するには、Nexus ダッシュボードの [サービスカタログ (Service Catalog)] ページのアプリケーションタイルで [開く (Open)] をクリックします。

シングルサインオン (SSO) 機能を使用すると、Nexus ダッシュボードで使用したものと同一クレデンシャルを使用してアプリケーションにログインできます。

次のタスク

NDO サービスをアップグレードした後、構成のばらつきを解決し、「[設定のばらつきの解決とテンプレートの再展開 \(7 ページ\)](#)」で説明されているようにテンプレートを再展開する必要があります。

設定のばらつきの解決とテンプレートの再展開

いくつかの事例では、構成がサイトコントローラで実際に展開される状況が、Nexus Dashboard Orchestrator で定義された設定と異なる場合があります。これらの構成の不一致は、[構成のばらつき (Configuration Drifts)] と呼ばれ、次の図に示すように、スキーマビューのテンプレート名の横に黄色の注意サインで示されます。

Nexus Dashboard Orchestrator のこのリリースにアップグレードした後、アップグレード時のデータベース変換により生じる構成のばらつきがないことを確認してから、すべてのテンプレートを再展開してアップグレードを完了する必要があります。



(注) 構成のばらつきを解決する前にテンプレートを展開すると、Orchestrator で定義された構成がプッシュされ、ファブリックのコントローラで定義された値が上書きされます。

始める前に

[Cisco App Store](#) を使用した [NDO サービスのアップグレード \(3 ページ\)](#) または [NDO サービスの手動アップグレード \(5 ページ\)](#) の説明に従って、Nexus Dashboard Orchestrator をアップグレードしておく必要があります。

ステップ 1 Nexus Dashboard Orchestrator で、**[アプリケーション管理 (Application Management)] > [スキーマ (Schemas)]** に移動します。

ステップ 2 最初のスキーマを選択し、そのテンプレートで構成ドリフトを確認します。

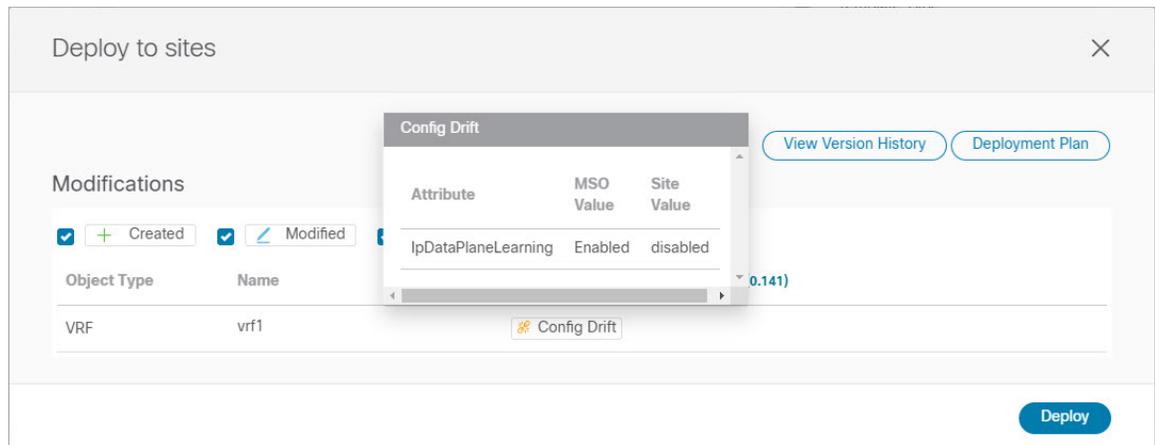
展開内のすべてのスキーマとテンプレートについて、次の手順を繰り返します。

次の 2 つの方法のいずれかで、構成のばらつきを確認できます。

- テンプレートが割り当てられている各サイトのテンプレート展開ステータスアイコンを確認します。



- テンプレートを選択し、**[サイトへの展開 (Deploy to sites)]** をクリックして構成比較画面を呼び出し、構成のばらつきが含まれているオブジェクトを確認します。



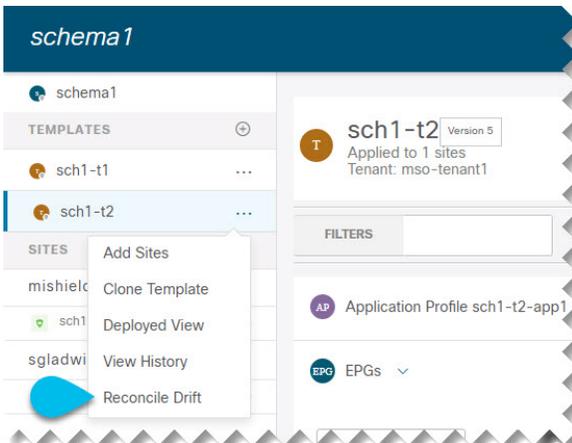
ステップ 3 テンプレートに構成のばらつきが含まれている場合は、競合を解決します。

構成のばらつきの詳細については、『[Cisco Nexus Dashboard Orchestrator Configuration Guide for ACI Fabrics](#)』の「構成のばらつき」の詳細を確認してください。

a) テンプレート展開ダイアログを閉じて、スキーマ表示に戻ります。

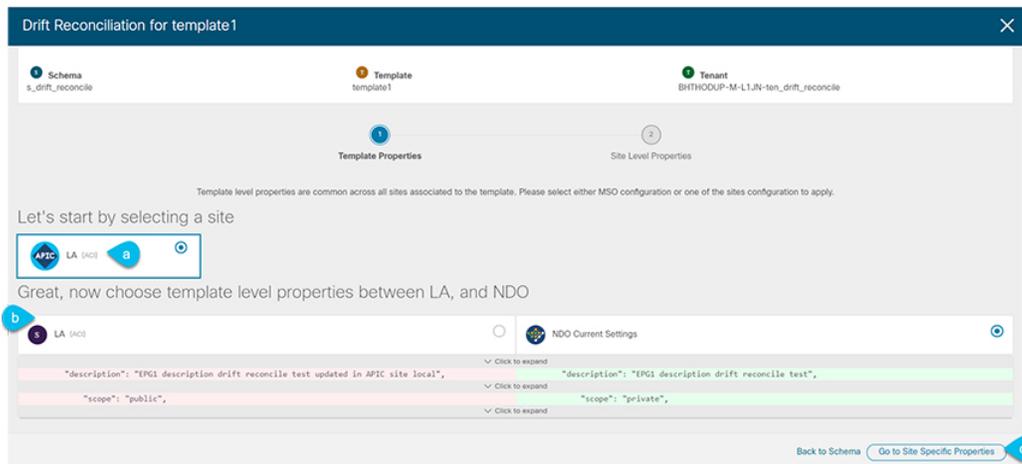
この時点でテンプレートを展開すると、Orchestrator データベースの値をプッシュして、ファブリックの既存の設定を上書きします。

b) テンプレートの **[アクション (Actions)]** メニューから、**[ばらつきの調整 (Reconcile Drift)]** を選択します。



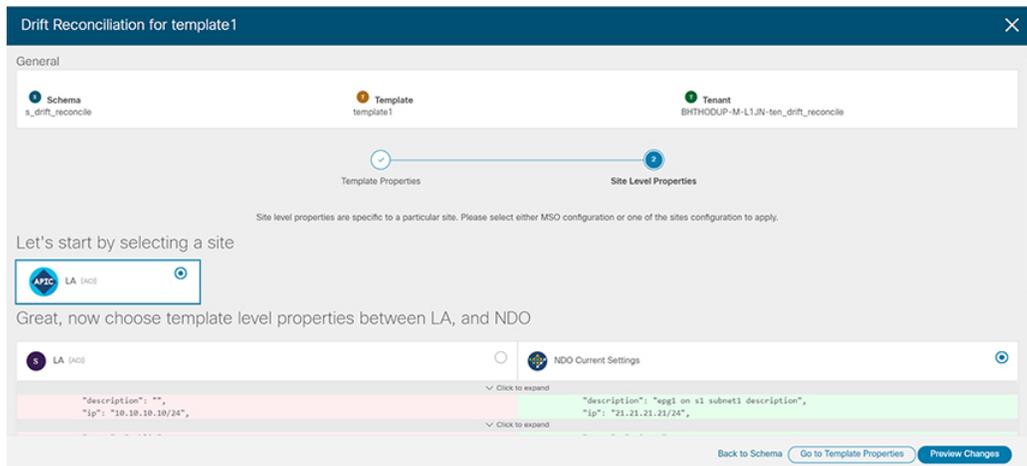
[ばらつきの調整 (Reconcile Drift)] ウィザードが開きます。

c) **[ばらつきの調整 (Reconcile Drift)]** 画面で、各サイトのテンプレートレベルの構成を比較し、希望のものを選択します。



テンプレートレベルのプロパティは、テンプレートに関連付けられているすべてのサイトに共通です。Nexus Dashboard Orchestrator で定義されたテンプレートレベルのプロパティを各サイトでレンダリングされた構成と比較し、Nexus Dashboard Orchestrator テンプレートの新しい構成を決定できます。サイト構成を選択すると、既存の Nexus Dashboard Orchestrator テンプレート内のこれらのプロパティが変更されますが、Nexus Dashboard Orchestrator 構成を選択した場合は、既存の Nexus Dashboard Orchestrator テンプレートの設定はそのまま保持されます。

- d) [サイト固有のプロパティに移動 (Go to Site Specific Properties)] をクリックして、サイトレベルの構成に切り替えます。



特定のサイトの構成を比較するために、サイトを選択できます。テンプレートレベルの設定とは異なり、各サイトの Nexus Dashboard Orchestrator 定義または実際の既存の設定を個別に選択して、そのサイトのテンプレートのサイトローカルプロパティとして保持できます。

ほとんどのシナリオでは、テンプレートレベルの構成とサイトレベルの構成のどちらでも同じ選択を行います。ばらつきへの調整ウィザードでは、サイトのコントローラで定義されている構成を「テンプレートのプロパティ」レベルで選択し、Nexus Dashboard Orchestrator で定義された構成を「サイトのローカルプロパティ」レベルで選択したり、またその逆で選択したりすることもできます。

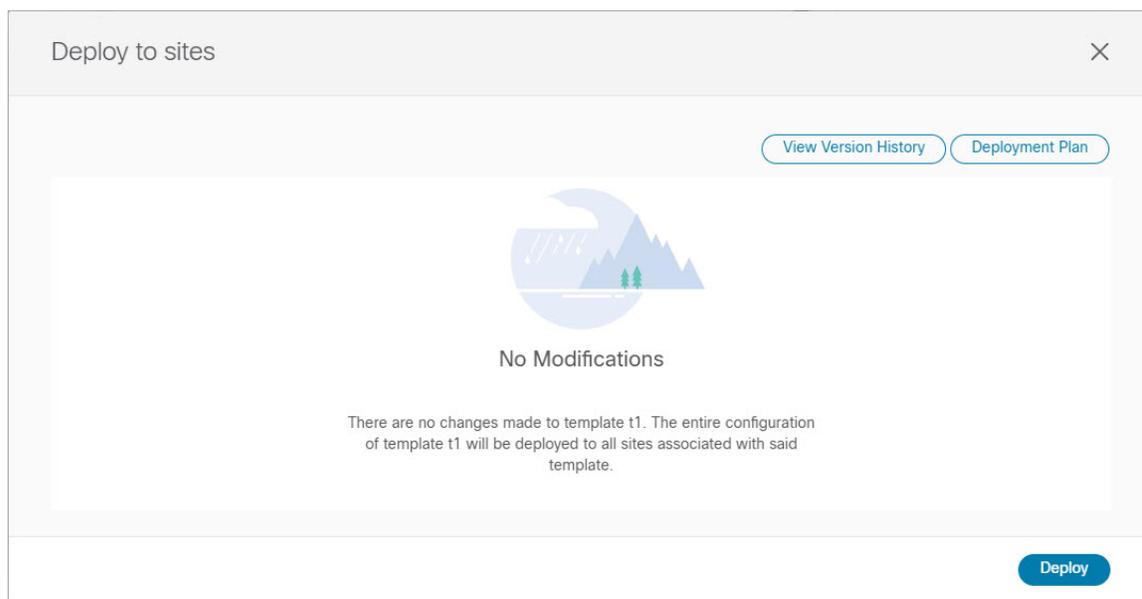
- e) [変更のプレビュー (Preview Changes)] をクリックして、選択内容を確認します。

プレビューは[ばらつきの調整 (Reconcile Drift)] ウィザードの選択肢に基づいて調整された完全なテンプレート構成を表示します。その後、[サイトに展開 (Deploy to site)] をクリックして設定を展開し、そのテンプレートのばらつきを調整できます。

ステップ 4 すべての構成のばらつきが解決され、[サイトへの展開 (Deploy to sites)] ダイアログに変更が表示されなくなったら、テンプレートの完全な再展開を実行します。

(注) リリース 3.7(1) のデータベース変換のため、各テンプレートの完全な再展開を実行する必要があります。

次の図に示すように、[サイトへの展開 (Deploy to sites)] ダイアログに変更が含まれていないことを確認し、[展開 (Deploy)] をクリックして、完全な構成を再展開します。



ステップ 5 Nexus Dashboard Orchestrator で各スキーマとテンプレートに対して上記の手順を繰り返します。

ステップ 6 監査ログをチェックして、すべてのテンプレートが再展開されていることを確認します。

[オペレーション (Operations)] タブの監査ログを表示できます。

[監査ログ (Audit Logs)] ページで、すべてのテンプレートが [再展開済み (Redeployed)] と表示され、完全な再展開が正常に完了したことを確認します。

